

# 令和7年度 事業報告書

自 令和7年 4月 1日

至 令和8年 3月 31日

## 事業概況

令和7年度は、米国および国内における政権の動きなどにより、内外情勢が大きく変化した一年となりました。ウクライナ情勢や中東地域における紛争をはじめとする国際的な不安定要因は引き続き残り、世界経済には先行き不透明感が見られる状況が続いています。一方で、国際舞台における日本選手の活躍や、大阪・関西万博に向けた取り組みなど、明るい話題も見られました。

航空分野においては、訪日外国人需要の定着により人流・物流が活発化する一方、国内線の収益課題、円安によるコスト増、人材確保、さらには気候変動対策など、中長期的な課題への取り組みが一層重要性を増しています。

このような状況の中、当協会はガバナンスと社会的信頼の確保を基本に、関係機関と円滑に連携しつつ、文化事業、航空遺産の継承、航空スポーツの振興をはじめとする各種事業を着実に推進してまいりました。以下、令和7年度における各事業の実施状況について報告いたします。

まず文化事業においては、対面およびオンラインを併用した定例講演会4回の開催ならびに新たに開講した「夏休み航空宇宙教室」において、延べ1,700名の参加を得ることができ、航空図書館にも多くの来館者にご利用いただきました。航空遺産継承事業においては、新たに2件の重要航空遺産を認定し、選定および保全活動を一層推進することができました。

航空スポーツ分野では、多くの競技会やイベントが開催され、10月にはフィンランドで開催された「国際航空連盟（FAI）総会」に日本代表として参加し、海外関係者との交流を深めました。また、次世代の航空宇宙人材育成を目的として、関係団体・企業と連携のもと、航空スポーツ教室や「こども模型飛行機教室」などを開催しました。

各事業の財政基盤でもある航空会館は、老朽化した外壁面等の大規模修繕や、令和8年度に館内の空調環境改善のための調査を行いつつ、航空会館からの収入増加、事業運営の効率化を図り、予算を上回る事業収入を確保することができました。

各事業の詳細につきましては、後頁のとおりとなりますので、ご参照願います。

# 第1 庶務事項

## I. 会議

### 1. 評議員会

第22回評議員会を6月19日に開催し、令和6年度の決算及び評議員、理事、監事、評議員並びに役員候補者選考委員の選任について承認可決した。

### 2. 理事会

第50回理事会を5月22日に開催し、令和6年度事業報告並びに決算（貸借対照表、正味財産増減計算書、並びに同付属明細書）、令和6年度公益目的支出計画実施報告書、評議員会の招集、顧問の選任について承認可決した。

第51回理事会を6月19日に開催し、植木義晴理事を会長(代表理事)に、進俊則理事並びに清水信三理事を副会長に、高田直人理事を専務理事に、大杉悟朗理事、山下照彦理事、二川直人理事の3名を常務理事に選定することについて承認可決した。

第52回理事会を令和8年3月19日に開催し、令和8年度事業計画及び予算の承認、役員等賠償責任保険契約の締結（更新）について承認可決した。

### 3. 常任理事会

重要な案件について審議し、協会事業の確実な執行と監督を実施した。

- |     |            |   |
|-----|------------|---|
| 第1回 | 令和7年 4月23日 | 各事業活動状況の報告。   |
| 第2回 | 令和7年 5月15日 | 第50回理事会付議・報告事項である令和6年度事業報告及び決算の件、令和6年度公益目的支出計画実施報告書の件、評議員会招集の件、顧問の選任の件について承認。 会長（代表理事）、副会長及び専務理事並びに常務理事（業務執行理事）の職務執行状況報告、理事、監事並びに評議員（補欠）の選任(案)の報告。<br>各事業活動状況の報告。 |
| 第3回 | 令和7年 6月12日 | 各事業活動状況の報告。   |
| 第4回 | 令和7年 7月17日 | 各事業活動状況の報告。   |
| 第5回 | 令和7年 9月10日 | 各事業活動状況の報告。<br>9月24日空の日関連行事の概要について  |
| 第6回 | 令和7年10月16日 | 再雇用制度の見直しについて(方針)の承認。<br>各事業活動状況の報告。  |
| 第7回 | 令和7年11月20日 | 航空遺産継承基金専門委員候補者の選定について承認。<br>各事業活動状況の報告。  |
| 第8回 | 令和7年12月18日 | 各事業活動状況の報告。   |
| 第9回 | 令和8年 1月15日 | 各事業活動状況の報告。   |

第10回	令和8年 2月18日	各事業活動状況の報告。
第11回	令和8年 3月12日	令和8年度事業計画及び予算（案）、第52回理事会資料（令和8年度事業計画及び予算、役員等賠償責任保険契約の締結（更新）について）の承認。会長（代表理事）、副会長及び専務理事並びに常務理事（業務執行理事）の職務執行状況及び各事業活動状況の報告。

## II. 役員人事

### 1. 理事

令和7年 6月19日	退任（6名）	篠辺 修、東 昭、伊藤 博行、岩崎 貞二、大川 順子、門脇 邦彦
令和7年 6月19日	就任（6名）	植木 義晴、安部 映里、北田 裕一、小山 陽子、高村江津子、山崎 直子

### 2. 評議員

令和7年 6月19日	辞任（1名）	北田 裕一
令和7年 6月19日	就任（1名）	田村 亮

### 3. 監事

令和7年 6月19日	辞任（1名）	浅川 修
令和7年 6月19日	就任（1名）	志岐 隆史

### 4. 顧問

令和7年 6月19日	就任（1名）	篠辺 修
------------	--------	------

## III. 賛助員

平成20年の公益法人制度改革関連法の施行を受け、日本航空協会は平成24年7月2日に一般財団法人へ移行した。これを機に、当協会の事業に賛同いただく法人および個人を対象に賛助員制度を設け、協会活動への支援をお願いしている。令和5年度からは賛助員制度の強化と航空クラブの活性化を目的に、令和5年4月1日両制度を統合し、賛助員制度を改定した。

令和7年度実績

法人賛助員 37法人（1法人増）、215口（19口増）

個人賛助員 62名、62口

法人賛助員は以下のとおり。

全日本空輸株式会社、日本航空株式会社、エアバス・ジャパン株式会社、空港施設株式会社、  
双日株式会社、ボーイング・ジャパン株式会社、丸紅株式会社、国光施設工業株式会社、  
株式会社ジャムコ、スカイマーク株式会社、日本空港ビルデング株式会社、  
Peach Aviation 株式会社、株式会社梓設計、エアロトヨタ株式会社、株式会社シグマクシス、  
アイベックスエアラインズ株式会社、アビコム・ジャパン株式会社、  
株式会社エアー・ジャパン、株式会社AIRDO、ANAビジネスジェット株式会社、  
株式会社エージーピー、兼松株式会社、コミー株式会社、航空会館 田中歯科、  
ジェットスター・ジャパン株式会社、新中央航空株式会社、株式会社スターフライヤー、  
全日空商事株式会社、株式会社ソラシドエア、損害保険ジャパン株式会社、  
東京海上日動火災保険株式会社、東京国際空港ターミナル株式会社、東邦航空株式会社、  
日本貨物航空株式会社、株式会社日本空港コンサルタンツ、  
株式会社フジドリームエアラインズ、株式会社 FLIGHT TIME、

(順不同)

## 第2 事業実績

### I. 文化事業

#### 1. 講演会等

年間計画に基づき、全4回の定例講演会を開催いたしました。本年度は、パリー東京間のフライトを、世紀を超えて実現する「赤い翼プロジェクト」の紹介をはじめ、『空の日・宇宙の日』記念特別講演会として、2025年に退役を迎えた「H-IIAロケット」の軌跡や「ジェットエンジン整備DX化」を、また、創刊45周年を迎えた月刊『エアライン』の歩み、さらには民間国際機関「IATA」による航空業界の将来展望など、時宜を得た多角的なテーマを設定した。これらの講演会に加え、初めて、「夏休み小学生向け航空宇宙教室」を対面で実施し、年間を通じて1,700名を超える方々に参加いただいた。

##### (1) 講演会の開催

回／開催日	演題・講師	参加人数
第309回 7月31日	「赤い翼 パリー東京プロジェクト～世紀を超えて夢の現実へ」 ～日仏交流のかけはし～ 東京大学名誉教授 鈴木 真二氏 (株)セリク代表 クリスチャン・ボラック氏	会場参加者数： 85人 オンライン： 190人 アーカイブ視聴回数：181回
第310回 9月2日	『空の日・宇宙の日』記念特別講演会 ① 「ジェットエンジン整備DX化」 ANAエンジンテクニクス 善家 亮介氏 ② 「H-IIAロケット」 JAXA 川上 道夫氏	会場参加者数： 83人 オンライン： 332人 アーカイブ配信無し
第311回 11月28日	「イカロス出版と航空雑誌の45年」 イカロス出版 月刊『エアライン』編集長 山田 亮氏	会場参加者数： 75人 オンライン： 190人 アーカイブ視聴回数：77回
第312回 2月19日	「2026年 航空業界の展望と変革」 ～グローバル旅客動向、デジタル化、そして脱炭素への挑戦～ IATA Japan代表 藤原 勇二氏	会場参加者数： 72人 オンライン： 395人 アーカイブ配信無し

(注) 第310回の『空の日・宇宙の日』記念特別講演会は日本航空宇宙学会、日本航空技術協会との共催。

##### (2) 夏休み小学生向け航空宇宙教室

開催日時：2025年8月12日(火)・13日(水) 会場 航空会館 B1階 B101会議室

参加者数：受講者:130名 付添:151名 合計:281名(延べ人数)関係者を含む

##### (講座内容)

演題・講師	参加人数
「現役パイロットによるフライトシミュレーターを活用した航空教室」 運営：日本航空機操縦士協会 講師：日本航空機操縦士協会 常務理事 / ANA 機長 大里 将之氏	受講者：35名 付添：40名 合計：75名
「飛行機と航空会社の見わけ方、働く人たちのお仕事にくわしくなる！」 運営：イカロス出版 講師：月刊エアライン 山田 亮 編集長、月刊エアステージ 本城 善也 編集長	受講者：36名 付添：41名 合計：77名

「小さなロケットを知ろう ～JAXA の観測ロケット～」 運営: 日本航空宇宙学会 講師: JAXA 宇宙科学研究所宇宙飛行工学研究系 竹前 俊昭 氏	受講者: 31 名 付添: 36 名 合計: 67 名
「こども模型飛行機教室 + 揚力実験装置による飛行機が飛ぶ仕組みの説明」 運営: 日本航空協会 航空スポーツ室 講師: 日本模型航空連盟事務局長 田邊 義和 氏	受講者: 19 名 付添: 24 名 合計: 43 名
「日本の航空の始まりのころ」 運営: 日本航空協会 航空遺産継承基金 講師: 日本航空協会 航空遺産継承基金 苅田 重賀 職員、堤 宇叶 職員	受講者: 9 名 付添: 10 名 合計: 19 名

## 2. 航空図書館

### (1) 運営体制の強化

#### ① 館内の整理整頓

受付カウンターの配置を見直し、物品の定位置を明確化。視認性が向上したことで、業務効率の大幅な改善を図った。

雑誌架および書架の清掃を日課とし、資料のホコリ除去を徹底。資料の劣化防止と保存状態の維持に努めている。ロッカー、コピー機、PCなど利用者用設備の定期的な除菌を実施し、衛生管理を強化した。

#### ② 業務手順書（SOP）の改訂

従来の慣習に頼らず、合理的根拠に基づいた業務フローへの見直しを継続。不十分な項目の抽出と改善を行い、組織的な業務品質の底上げを図っている。

### (2) 利用者満足度の向上

#### ① 配架方法の変更

複写利用の利便性向上を目的に、製本方法をファイリング形式へ変更。あわせて製本コストの削減も実現した。規格の異なる図書の配列を分類内で最適化し、背表紙の視認性を向上。出版社や著者別の整理を徹底し、検索性を高めた。雑誌架の整理により配架スペースを拡張。次年度は外部倉庫の資料を含め、さらなる配架量の増加を計画している。

#### ② 資料収集

利用者アンケートに基づき、専門図書館としての選書基準を厳選。出版社への寄贈依頼を継続し、蔵書の充実に努めた。来館者への周知活動により個人からの寄贈が増加。受入資料はSNSで「新着図書」として感謝と共に紹介し、さらなる寄贈の呼び水とした。

実績：今年度の受入数は図書297点、雑誌358点に達し、特に個人からの寄贈は前年度比約3倍と大幅に伸長した。

#### ③ 企画展示（年間20回）

講演会や「空の旬間」に連動した展示を展開。手書きポップや航空遺産部門提供の写真等を活用し、希少資料への関心を喚起した。

宇宙航空教室の開催時には、子供向け展示や手作りの「しおり」配布を行い、次世代層の記憶に残る企画を実施した。

夏季には中央大学研究開発機構の協力により、文部科学省でも展示された小型AIロボット群を展示。家族連れを中心に大きな反響を得た。

(3) 認知度向上

① 戦略的なSNS活用

週2回の定期更新に加え、イベント時は投稿頻度を強化（年間計117回）。講演会への出席者および来館者の増加に直接的に寄与した。

② 「航空の聖地」としてのブランディング

館内での航空お守り授与や記念品販売がSNSで話題となり、航空関係者やパイロット訓練生、就職活動中の学生等の来館が急増。

旅行者や外資系航空会社クルーの滞在時利用など、遠方・広域からの利用者が増加しており、専門図書館としての認知が着実に広がっている。

(2025年度 航空図書館 Facebook・Instagram アカウント運用結果)

2025年度	Facebook	Instagram	合計
閲覧数	30,380	74,974	105,354回
反応数	1,551 (前年比 120.3%)	671 (前年比 200%)	2,222回
新規フォロー	40件(累計 464件) (前年比 142.9%)	178(累計 360件) (前年比 200%)	218件(累計 824件)

※前年度データが利用可能なものについては、前年比を括弧書きで併記した。

※Xは無料プランのため統計データを利用できなかった。現フォロワー数は2,459件であり、Facebook・Instagramに比して影響力は大きいものの、検証不能の為上記表には記載せず。

(4) 社会的価値の創出と外部連携

① 地域・他館との連携強化

港区の専門図書館群と合同で「港区民まつり」に出展。用意した500部のリーフレットが完売するなど、予想を上回る集客と広報効果を得た。

港区立図書館の循環車を活用し日常的な情報交換やイベント告知の相互協力を深化させた。

他館（国立国会図書館等）への見学会（計3回）や「図書館総合展」への出展を通じ、スタッフの専門性向上とネットワーク構築を図った。

② レファレンス・サービスの質の向上

高度なレファレンス回答事例を月1回（年12回）全体で共有。各スタッフの知見を統合して解決に当たる協力体制を構築し、回答の精度と信頼性を高めた。

③ 資料のリサイクルを通じた社会貢献

規定に基づき除籍した資料を「リサイクル資料」として利用者へ無償提供。特に専門性の高い製本雑誌類は、研究者や愛好家から高い評価を得た。

(5) 助成金を活用した保管資料の整理とデジタルアーカイブ化

埼玉県内の倉庫に保管されていた未整理資料（貴重な航空遺産を含む約26,000冊）の課題解決に着手。専門業者との協働による「2カ年計画（2028年3月完了予定）」を策定し、公益財団法人図書館振興財団の助成事業に採択された。重要度の高い資料のデジタル化を推進し、貴重な航空資料の確実な保存と、将来的な公開・利活用に向けた基盤を構築する。

(6) 利用状況 (令和7年度実績)

項目		年度計	月平均	1日平均	年度計 前年度比
開館日数 (日)		235	19.6	-	100.9
入館者数 (人)		2,367	197.3	10.1	132.5
貸出登録証発行数 (件)		24	2	0.1	109.1
内訳 (件)	一般	20	1.7	0.1	142.9
	大学・短大・専門学生	2	0.2	0.0	50.0
	高校性	0	0	0.0	0
	小・中学生	2	0.2	0.0	50.0
貸出利用者数 (人)		170	14.2	0.7	160.4
貸出冊数 (冊)		435	36.3	1.9	165.4
複写利用者数 (人)		256	21.3	1.1	110.3
資料照会・利用案内件数 (件)		332	27.7	1.4	138.9

(7) 資料受け入れ状況 (令和7年度実績)

資料	購入	寄贈	総計	前年度比
図書 (冊)	29	300	329	325.7
雑誌 (冊)	165	348	513	22.0

### 3. 機関誌・図書の刊行

機関誌「航空と文化」冊子版を航空宇宙に広くテーマを求めて年2回発行した。冊子版に掲載した記事を「航空と文化」WEB版に順次転載し当協会ホームページで公開している。

(1) 冊子版「航空と文化」

No.131 (1,600部)、No.132 (1,600部) を発行した。

「航空と文化」No.131 夏季号 7月15日発行

「航空と文化」No.132 新春号 1月15日発行

(2) WEB版「航空と文化」

WEB「航空と文化」の更新は実施しなかった。

(3) 「数字でみる航空」

2025版を国土交通省航空局の監修を受けて9月30日に発行した。

※ (1) の概要は、別表1 (付1~2頁) の通り。

## II. 航空遺産継承事業（航空遺産継承基金事務局業務）

航空遺産の調査、寄贈資料の整理・修復、資料の貸出などの活動を実施した。

### 1. 航空遺産継承活動の社会的認識の向上

新たに1名および復活1名の個人賛助員の賛同をいただき、個人賛助員数は結果として1名増（法人は前年度と同じ）となった。

#### (1) 賛助員

令和7年度賛助員の状況は以下の通り。

特別賛助員（累計）11名、1団体

法人賛助員 33口（8法人）

個人賛助員 46口（41名）

#### (2) 特別顧問

三輪 嘉六 元独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館館長

#### (3) 専門委員

飯野 明 都立産業技術高等専門学校 名誉教授

北河 大次郎 文化庁 文化財調査官

鈴木 一義 元独立行政法人国立科学博物館 産業技術史資料情報センター長、  
当協会評議員

柳沢 光二 航空史家

横山 晋太郎 元かかみがはら航空宇宙博物館参事、元独立行政法人国立文化財機構  
東京文化財研究所客員研究員

### 2. 資料の保存継承

(1) 散逸の恐れのある資料について保存継承のため以下の寄贈を受けた。

- 1) 戦前に活躍したパイロット・亀井五郎の関連資料(写真と航空図)をご親族の高見智子氏から寄贈いただいた。
- 2) 田村幹夫氏から1920年代から1960年代までの書籍、設計図、写真など資料を寄贈いただいた。
- 3) 根本卓氏より書籍『実用飛行機』（大正四年刊）を借用し、デジタル複写を実施した。
- 4) 児玉源氏より、ご祖父の児玉常雄が所有していた絵はがき、胸像、写真、手帳、パンフレットといった資料を寄贈いただいた。
- 5) 日本飛行機の益本貴史氏より、『日本飛行機90周年記念史』（USBフラッシュメモリ形式）を寄贈いただいた。
- 6) せきれい社から『航空情報』編集部資料を寄贈いただいた。
- 7) 航空遺産賛助員の曾我誉旨生氏より、日本航空機製造YS-11、パイパーPA-42シャイアン、セスナ 560 サイテーションのマニュアル等の資料を寄贈いただいた。
- 8) 大石直昭氏から1934年のパリ航空サロン（いわゆるパリ航空ショー）のカタログなどを寄贈いただいた。
- 9) 橋本幸一氏から1980年代の国内外エアライン各社の時刻表などを寄贈いただいた。
- 10) 山康博氏の所蔵資料（写真および図書）を寄贈いただいた。

- 11) 田中齒科から1960年頃の飛行館の写真パネルを寄贈いただいた。
- (2) 重要航空遺産の認定  
7月25日に愛媛県所蔵で同県愛南町にある紫電改展示館に展示されている局地戦闘機「紫電改」に認定し、10月25日にJAXA所蔵で岐阜かかみがはら航空宇宙博物館に展示されている低騒音STOL実験機「飛鳥」に認定した。これらの認定によって重要航空遺産は計14件となった。
- (3) 航空資料保存に関する研究  
有識者からなる「飛燕修復プロジェクト委員会」を新たに立ち上げ、6月2日に岐阜かかみがはら航空宇宙博物館にて三式戦闘機「飛燕」二型の機体の状況を調査し、修復方針について議論した。プロジェクト委員は以下の通り（50音順）。
  - 内和雅仁（自動車整備業。知覧特攻平和会館の疾風の誉エンジンの調査に参加）
  - 大野正裕（元エンジニア）
  - 小山澄人（岐阜かかみがはら航空宇宙博物館ボランティア）
  - 川野邊渉（当協会評議員、東京文化財研究所名誉研究員）
  - 中村泰三（古典航空機研究家）
  - 長島宏行（元当協会職員）
  - 安福紘大（岐阜かかみがはら航空宇宙博物館学芸員）修復費用の調達クラウドファンディングを含めて具体的なイベントは次期に予定。

### 3. 資料の調査研究

- (1) 寄贈資料などについて専門家の協力を得ながら調査研究を進めた。
  - 1) 府中郷土の森博物館が所蔵している古い航空機部品（陸軍一〇〇式司令部偵察機の水平右安定版）の専門委員による調査を実施した。
  - 2) 立飛ホールディングスが所蔵している立飛R-53およびR-HMなどの専門委員による調査を実施した。
  - 3) 南九州市が行った知覧特攻平和会館の四式戦闘機「疾風」の調査に参加した。
  - 4) 「YS-11試作1号機の永続的保存に関する有識者会議」の中間答申（案）に基づいて航空科学博物館（千葉県山武郡芝山町）が組織したワーキング・グループによる同機の調査に協力した。

### 4. 資料の公開

- (1) 協会ホームページの航空遺産ギャラリーで「今月の一枚」として計12枚の写真を紹介した。
- (2) 三式戦闘機「飛燕」を岐阜かかみがはら航空宇宙博物館に継続して貸出した。
- (3) 1階ロビーの展示ケースの航空遺産の展示を行った。4月～9月は航空会社の時刻表冊子に関する航空図書館コレクション、10月～3月は「戦前の絵葉書に見る新橋・日比谷」および航空図書館コレクションを展示した。
- (4) 協会ホームページの航空遺産ギャラリーに「航空史黎明期写真アルバムー佐貫亦男コレクション」および「大阪飛行機研究所の空撮写真コレクション」を追加した。
- (5) 以下の写真資料を貸し出した。
  - 1) 書籍『飛機學校』（ニュートンプレス発行の児童向け書籍『飛行機の学校』の台湾版）

への掲載用に、日本語版と同じ写真を貸し出した。

- 2) 岐阜かかみがはら航空宇宙博物館にSTOL実験機「飛鳥」の関連資料を、企画展（7月～来年1月開催）用に貸し出した。
- 3) 大和ミュージアム（呉市海事歴史科学館）に、F-5号飛行艇（日本海軍が運用した1920～30年代の飛行艇）の写真資料63点を貸し出した。
- 4) 赤い翼プロジェクトに対し、マルセル・ドレ、マリーズ・イルズ、ジョルジュ・ペルティエ＝ドアジーら、日本にゆかりのある戦間期のフランス人パイロットの写真を貸出し、あわせて情報提供を行った。
- 5) 安曇野市教育委員会に対し、同会主催の生涯学習講座のため、同市出身の民間飛行家だった長谷川清登（1896～1959）について、写真の貸出と情報提供を行った。
- 6) （有）エアロベースに奈良原式4号などの写真を6枚貸し出した。
- 7) 横川裕一氏へ、昭和初期の飛行場や格納庫に関する写真を3枚貸し出した。
- 8) 作家・夫馬信一氏に、酣燈社で雑誌『航空情報』編集長を務めた故・水野民雄氏が1982年10月28日に那覇空港で撮影したロッキードL-1011トライスターの写真を貸し出した。
- 9) テレビ朝日に、1938～40年頃に撮影された大日本航空株式会社のエアガールの写真1枚を貸し出した。
- 10) アジア航測株式会社に、教育資料として帝国飛行協会が作成した戦前の掛け軸「飛行機に依る文化的使用」の写真1枚を貸し出した
- 11) 日テレの朝の情報番組「DayDay.」用に徳川好敏大尉などの写真4枚を貸し出した。
- 12) ポーランドの日波交流史研究者のバルバシェヴィチ・オルガ氏に、1926年のワルシャワ―東京間往復飛行に関する写真8枚を雑誌掲載用に貸し出した
- 13) ノンフィクション作家の細田京香氏に、ク8「四式特殊輸送機」（日本軍の強襲用グライダー）の写真2枚を貸し出した

## 5. その他

- (1) 12月26日、「赤い翼プロジェクト」（一般社団法人 赤い翼日仏航空文化協会）の実行委員会に参加した。
- (2) 愛媛県歴史文化博物館に同県出身のパイロット、清水千波（1908～1987）について情報提供をし、同館が2025年10月23日から2026年1月23日まで開催したコーナー展示「フェリー・パイロット 清水千波」に活かされた。
- (3) 夏休み小学生向け航空宇宙教室にて、「日本の航空の始まりのころ」と題した講義を行った。
- (4) NHKのTV番組「クローズアップ現代 明治生まれ最後の5人」（9月16日放送）および「ドキュメント20min. 最後の明治人」（10月19日放送）の取材に協力した。
- (5) 日テレの朝の情報番組「DayDay.」の制作会社から代々木練兵場での飛行機の初飛行についてファクトチェックの依頼があり協力した。
- (6) 万世特攻平和祈念館から、同館所蔵の重要航空遺産「零式水上偵察機」のキャプション用型式名についてアドバイスを求められ協力した。
- (7) 愛媛県西予市三瓶町に残るプロペラについて愛媛県教育委員会文化財保護課から機種特定にアドバイスを求められ、賛助員・宮崎賢治氏の助力を得て回答した。

### Ⅲ. 航空スポーツ普及・振興事業

#### 1. 概況

各航空スポーツ統括団体を中心に世界選手権出場など活発な航空スポーツ活動（競技会、イベント等）が展開されたが、一方で、航空スポーツを取り巻く環境は刻々と変化しており、気球法制化、ドローンとの空域棲み分け、高齢化による会員数減少などの課題に対し、航空スポーツの永続的発展に寄与すべく環境整備に注力した1年であった。

このような環境下における主な取り組みは以下のとおり。

##### (1) 航空スポーツの普及振興活動

年間計画どおりに「こども模型飛行機教室」「航空スポーツ教室」を各地区で開催し、物づくりの楽しさや学びの場を提供するなど、次世代の航空スポーツファンとなる青少年に対し積極的にアプローチした。特に、年2回の当協会直営となる東京都臨海広域防災公園でのアウトドアイベント「空を見上げて」（台風により開催中止）、三田図書館でのインドアイベント「航空スポーツ教室 in 三田図書館」は航空スポーツ統括団体と連携できる重要な活動であり、次年度以降も継続的に展開する。また、FAI 国際航空連盟の日本代表として、各航空スポーツ統括団体が運営する日本選手権の公認、国際選手権への日本選手団派遣承認、国内イベント後援など、航空スポーツの普及振興活動を着実に実行した。

##### (2) 青少年教育プロジェクト

前段でも述べたが、将来の航空スポーツファンとなる青少年に対し、「こども模型飛行機教室」「航空スポーツ教室」を通じてアプローチしたが、今後は限られた予算の中で最大効果を生み出すために開催地区に優先順位を設け、質と効率両面での向上を図っていく。

また、「青少年航空宇宙絵画国際コンテスト」では324点の応募をいただき、協会会長賞を含む9作品を日本代表作品としてFAI（国際航空連盟）主催の国際コンテストにエントリーしたが、残念ながらFAI賞の獲得とはならなかった。本コンテスト及びこども模型飛行機教室・航空スポーツ教室は青少年へ効果的に訴求できる当該プロジェクトの核となるツールとなっている。

航空スポーツの将来のためにも、競技者、愛好者など各団体会員数の減少を食い止め増加に転じさせるという課題を掲げ、次年度以降も青少年への普及振興活動に全力で取り組む。

##### (3) 国内関連団体への対応

航空スポーツ活動の環境整備と拡充の観点から取り組んでいるドローン情報基盤システム（DIPS2.0）を介したドローン飛行と共存共栄の空域確保への取り組みは、航空局側のシステム対応が難しいことから、次善策を構築する必要性に迫られ、現在も航空局と鋭意交渉中となっている。この取り組みの本質は、近い将来台頭すると見込まれる商用ドローンや空飛ぶクルマとの出会い頭による事故を未然に防ぐことにある。健全な航空スポーツ活動を実現するためには、安全確保は譲ることができぬ絶対条件であることを念頭に、引き続き航空局と調整を図っていく。

日本オリンピック委員会中央競技団体向けガバナンスコードに準拠し定めた航空スポーツ事業のガバナンスコードについては、2027年7月の最終適合審査に向け更なる深化を図り、国内航空スポーツ界の信頼性向上に努める。安全面については、今年度も残念ながら

ら航空スポーツ死亡事故が発生した。なお、当協会が把握している死亡事故件数は 9 件（パラグライダー6件、モーターパラグライダー2件、グライダー1件）2026/3/31現在。引き続き各団体が開催する安全講習会視察など、安全意識向上を促す活動を更に活発化して各航空スポーツ統括団体に対し事故撲滅を働きかけて行く。

#### (4) 国際関連団体への対応

第119回FAI総会（2025年10月22～24日）は、前回の総会で新しく執行役員に選出された Timo Hyvönenが所属するフィンランド航空協会のオーガナイズにより、ヘルシンキで開催された。今回の総会は、新会長や執行役員の発案で、新たな総会のスタイルが会員間で検討され、「Work Better Together」をテーマに、通常議案以外に役員や会員間の連携と専門知識の交換促進を目的に外部有識者を交えたフォーラム（講演会、討論）も開催された。参加者は一流の専門家や各委員会が進めている安全、技術革新、空域といった重要課題に関する知見に触れる機会が提供された。

また、継続的なFAI方針である「業務コストの削減、バランスの取れた予算の構築、会費収入と一般管理費の均衡の下、会員サービスの提供」に加え、世界中の新しい若い世代との積極的な関わり（長期的で持続可能な青少年育成）や航空スポーツ認知度を高めるメディアプロモーションなどが新たな方針として加わった。

例年焦点となる会費については、スイスの消費者物価指数（CPI）の予測を反映。スイスフラン高が継続しているものの、その影響は依然として小さいことから、一般的なコスト動向との整合性を維持するため0.5%の緩やかな調整が提案、可決された。なお、総会議案として申請していた日本の会員クラス変更（クラス4からクラス5）は、投票の結果、承認された。

その他のトピックスとしては、10月14日を「国際航空スポーツの日」とする記念日の制定、アスリート委員会新設の方針決定、2026年総会の開催地がFAI本部のあるローザンヌ（スイス）に決定。

また、アジア地域の航空スポーツ連盟であるAFA（Air Sport Federation of Asia）の活動については、特記する顕著な活動等は無かった。

航空スポーツ団体の活動状況は、別表2（付3頁）の通り。

## 2. 国際航空連盟(FAI)に関する活動

- (1) 第119回FAI総会が開催され、日本代表として当協会より1名が出席した。

会議名	期間	開催地	出席者
第119回 総会	2025年10月22日 ～24日	ヘルシンキ (フィンランド)	松崎 真也

- (2) 種目別国際エア・スポーツ委員会、技術委員会に関する活動  
各委員会の開催期間、開催地及び出席者は下表の通り。

会議名	期間	開催地	出席者
国際マイクロライト・パラモーター委員会	2026年2月19日 ～21日	ローザンヌ (スイス)	(NPO)日本パラモーター協会 五十嵐 亮

国際ハング・パラグライ ディング委員会	2026年3月5日 ～8日	ポルト (ポルトガル)	(公社)日本ハング・ パラグライディング連盟 岡 芳樹
国際滑空委員会	2026年3月6日 ～7日	ローザンヌ (スイス)	(公社)日本滑空協会 佐志田 伸夫
国際気球委員会	2026年2月4日 ～7日	アルウラ (サウジアラビア)	(一社)日本気球連盟 副島 弘壮

- (3) A F A (AFA: Air Sport Federation of Asia)総会、執行役員会議  
本文「(4) 国際関連団体への対応」に記載のとおり当団体の会議参加は無い。

### 3. 選手権等

2025年4月～2026年3月末までに実施された日本選手権は、熱気球、模型航空機、ハング・パラグライダー、マイクロの4種目、計26サブクラスを当協会が公認し、24サブクラスが成立した。

また、日本で開催されたFAI国際競技会（カテゴリーII）は、ハング・パラグライダーの1種目、21サブクラスがFAIより公認され、19サブクラスが成立した。

海外で開催されたFAI国際競技会（世界選手権や大陸選手権）へは、滑空機、模型航空機、ハング・パラグライダー、パラモーターの4種目、19サブクラスに選手団を派遣した。

各種競技会の実績は、別表3（付4～9頁）の通り。

### 4. 記録の公認等

2025年4月～2026年3月末までに当協会が認定した日本記録およびFAIより認定された国際記録はなかった。

別表4（付9～11頁）を参照。

### 5. 航空スポーツ教室、こども模型飛行機教室「スカイ・キッズ・プログラム」の開催

子供達に航空スポーツを安全に楽しむ機会を提供することにより、空に対する憧れや科学的な目でアプローチする姿勢、自然に親しむ心を醸成することを目的としたこれらの教室については以下の通り開催した。

#### (1) 航空スポーツ教室

計画をしていた以下の教室を開催した。

##### ① 通常教室

- ・阿蘇くまもと空港（2025年9月27日）空の日フェスタ2025in阿蘇くまもと空港共催

##### ② 都心プロモーション教室

- ・東京都港区札の辻スクエア（2025年5月18日）港区立三田図書館共催
- ・東京臨海広域防災公園（2025年8月2日、3日）「空を見上げて」共催【荒天中止】

##### ③ 熱気球教室（新規実施 於：岐阜かかみがはら航空宇宙博物館）

- ・令和7年度ジュニア航空博士認定講座（第2回）熱気球＜講座・製作・実験＞

(2) こども模型飛行機教室

20年間当該事業をけん引してきた「こども模型飛行機教室全国推進委員会」を昨年度解散し、当協会事業として継承後、初年度となった今年度は、9回の教室を開催。引き続き安定した事業運営を行うことが出来た。

## 6. 青少年航空宇宙絵画国際コンテスト

(1) 2025青少年航空宇宙絵画国際コンテスト

国際航空連盟（FAI）が主催する青少年を対象とした国際絵画コンテスト「2025FAIヤングアーティスト コンテスト」へ、今年も国内予選で入賞した下表の9点を日本代表作品として出展した。

会長賞・優秀賞

クラス	氏名	住所	題名
6～9歳 (年少)	櫻澤 采穂	京都府	オシャレに舞う
	石田 紗那	山口県	楽しいうちゅう
	茶谷 百	広島県	わたしが決めてやる！
10～13歳 (年中)	小山 紗瑛	広島県	大空はたのしいネ
	池田 暁	東京都	空から舞いおりたレスキューレンジャー
	ホール大崎 エイミー才阿乃	広島県	空へ宇宙へ
14～17歳 (年長)	会長賞：柳下 愛風	神奈川県	正夢
	内山 柚里	福島県	夢を乗せて
	豊嶋 苺彩	愛知県	夢の翼

※「青少年航空宇宙絵画国際コンテスト日本航空協会会長賞」は、国内審査において特に高い評価を得た柳下愛風さんに授与した。

(2) 2026青少年航空宇宙絵画国際コンテスト

「命・心を救うために飛ぼう（原題：FLY TO SAVE LIVES）」というテーマの下、9月に国内コンテストの募集を開始した。募集開始に伴い、チラシ2千枚の配布や無料公募サイト6社への情報掲載を行った。

## 7. 主催・後援事業

主催・後援事業等は、別表5（付11～12頁）の通り。

## IV. 表彰・弔慰援護事業

### 1. 表彰

#### (1) 令和7年度表彰

表彰委員会を6月9日に開催し、令和7年度の日本航空協会賞各賞の受賞者を決定した。9月24日に日本航空協会表彰式と国際航空連盟賞の伝達式ならびに記念祝賀会を航空会館で開催した。

##### 1) 日本航空協会賞

種 類	受 賞 者 (敬称略)
航 空 亀 齢 賞	伊藤 源嗣 ・ 西岡 喬 ・ 柳田 邦男 ・ 吉川 謙三
航 空 功 績 賞	伊東 信一郎 ・ 鈴木 真二 ・ 藤野 道格
空 の 夢 賞	成田空港第8貨物上屋プロジェクト 前田 伸二
航 空 ス ポ ー ツ 賞	橋本 勇希 板垣 直樹 伊藤 寛規 2025年 模型航空世界選手権 ラジオコントロールヘリコプター (F3C) 日本代表チーム

##### 2) 国際航空連盟(F A I)賞

種 類	受 賞 者 (敬称略)
ポール ティサンディエ ディプロマ	平澤 浩子
ハンス アケルシュテッド アワード	市吉 三郎
FAIエア スポーツ メダル	吉野 浩清 ・ 井上 善雄

協会賞及びF A I賞の詳細は、別表6 (付12~15頁)の通り。

- (2) 表彰式の満足度向上を目的として、会場レイアウトの最適化および映像モニター2台を導入した。映像を通じて表彰内容や受賞者を詳細に紹介することで、参加者の理解を深め、臨場感のある演出とスムーズな進行を実現した。

### 2. 弔慰援護

航空関係物故者2名について航空育英会を継続実施した。

今年度の給付奨学金総額は336千円、受給奨学生の人数は2名で、その内訳は、高校生1名、大学生1名であった。

## V. 航空交流事業

### 1. 新年賀詞交歓会

当協会が世話役の代表となって毎年開催する恒例の賀詞交歓会は、参加人数を制限して令和8年1月7日に開催した。来賓に、金子恭之国土交通大臣、水嶋智国土交通事務次官、寺田吉道国土交通審議官、村田茂樹観光庁長官、宮澤康一航空局長を迎え、航空関係者338名が出席し、盛大に行われた。

### 2. 航空神社祭事

令和7年9月24日、航空会館9階において、航空各社の代表者ならびに祭神である航空殉職者・功労者のご遺族のご参列を賜り、靖国神社神官の出張奉仕のもと、航空神社平安祈願例大祭を厳粛に斎行した。また、令和8年1月7日には、協会役職員が参列し、新年の航空安全と航空関連事業繁栄を祈念する新年祭を執り行った。

今年度は、お守りの種類を拡充するとともに、御朱印帳やANA・JALとのコラボレーションによる記念品を新たに用意した。さらに、当協会ホームページやXアカウント等を活用した積極的な情報発信を行った結果、航空神社への参拝者数および授与品の授与数は、引き続き増加傾向を示している。

## VI. 全国地域航空システム推進協議会事務局業務

全国地域航空システム推進協議会から受託した事務局業務を構成する、研修会や地域航空フォーラムの開催などの協議会事業の窓口及び調整業務、総会・理事会・幹事会などの会議の事務処理、会費の徴収事務、資産管理及び会計事務、これらに付随する庶務業務の各業務を適切に遂行し、全国地域航空システム推進協議会からの付託に応えた。

また、持続可能な協議会活動を進めて行けるよう、収支のバランスの健全化・単年度収支の適正化を実現した。

## VII. 「空の日」・「空の旬間」実行委員会事務局業務

以下の通年事業の事務局業務を実施した。

### (1) 空の日記念式典

第73回「空の日」航空関係功労者国土交通大臣表彰式（受賞者23名）を国土交通省共用大会議室にて開催した。

### (2) 広報活動

Facebook、協賛各社・団体保有の機関誌等紙面への空の日に関する記事掲載（無償）、航空教室等で空の事業の周知・広報活動に努めた。

(3) 絵画コンテストの支援

応募チラシの一部補助に加え、国際コンテストに入賞した場合に複製パネルを制作し贈呈しているが今回は入賞には至らなかった。

(4) 地方事業の支援

全国の空港等で開催される空の日イベントに、事業費の一部を補助した。

(5) 啓発事業の支援

青少年を対象とする航空教室や、航空スポーツ分野の安全に関する講演会、講習会等の取り組みなどに対して事業費の一部を支援した。

(6) その他

関東近郊に在住の中学生を対象とし、羽田空港航空関連施設及び新たに成田空港周辺航空関連施設見学を実施した。

羽田：ANA Blue Base、JAL SKY MUSEUM、羽田空港第3ターミナル

成田：NAAランプセントラルタワー、航空科学博物館、JAL成田航空機整備センター、成田空港第8貨物ビル

## VIII. 国際線発着調整事務局業務

平成20年1月、我が国の混雑空港である成田国際空港及び関西国際空港の国際線発着調整業務が日本航空協会に委嘱され、平成22年2月、新たに東京国際空港（羽田）における国際線・国内線発着調整業務が追加委嘱された。加えて、平成24年8月、新千歳空港における国際線・国内線発着調整業務が追加となり、更には平成27年8月、福岡空港における国際線・国内線発着調整業務が追加委嘱された。

令和7年度においては、成田、関西、羽田、新千歳、福岡空港の5混雑空港における国際線・国内線に関する冬ダイヤ、夏ダイヤの調整作業を中心として、IATA（国際航空運送協会）等との会議への貢献に加え、事務局の中立性、公平性、透明性等を更に推進するため下記に示すような業務を実施した。

### 1. 2025年冬ダイヤ、2026年夏ダイヤの調整

成田国際空港、関西国際空港、東京国際空港（羽田）、新千歳空港及び福岡空港の国際線・国内線スケジュールに関し、IATA、ACI（Airport Council International）及びWWACG（Worldwide Airport Coordinators Group）の定めるWASG（Worldwide Airport Slot Guidelines）及び当該空港のローカル・ガイドラインに基づき、下記の調整を日本乗り入れ航空会社（約140社）と実施した。

(1) 2025年冬ダイヤ（10.26,2025-3.28,2026）の調整

1) IATA SC（Slot Conference）事前調整

2025年冬ダイヤの調整に当たり、ロシア空域制約やグランドハンドリング人員不足の影響等による欠航発生状況を踏まえて前年同期の運航実績を各航空会社に送付（4月下旬）、運航実績の相互確認を行い、各航空会社からの希望スケジュールの提出（5月中旬）を受け、希望スケジュールを規制値内に収めるよう調整し、内外の航空会社に対して一次回答（6月上旬）を行った。

2) I A T A S C (Slot Conference) 156回会議への参加

S C 156回会議がカナダ・バンクーバーにて6月17日～19日に開催され、日本乗り入れ航空会社と対面方式で個別面談を行い2025年冬ダイヤにおけるスケジュール調整を行った。

(2) 第15回空港発着調整委員会の開催

平成22年度に、レベル3の混雑空港（成田、羽田空港）を対象として、空港当局、管制機関、参入航空会社等で構成される首都圏空港発着調整委員会が設置された。更に、平成27年8月、福岡空港がレベル3の混雑空港として追加されたことから、委員会の名称・規約の変更を行い「空港発着調整委員会」と名称を変更して再スタートすることとなった。令和3年度からは、同年3月にレベル3の混雑空港に指定された関西空港を対象に追加し、空港発着調整委員会を開催している。

2026年夏ダイヤに向けて、第15回空港発着調整委員会を9月30日、航空会館7階大会議室における実地開催とオンライン方式と併用して開催した。主たる議題は、2026年夏ダイヤに向けた調整方針（規制値）、成田国際空港、東京国際空港（羽田）、福岡空港、関西国際空港の各空港に関する運用状況、空港施設整備計画等の報告であった。

また、上記委員会に合わせて、第6回スロットモニタリング委員会を開催した。同委員会は、レベル2の混雑空港（新千歳空港）も含めた5空港が対象となり、前年度運航実績についてスロット監視の状況等について説明がなされた。

(3) 2026年夏ダイヤ（3.29 - 10.24, 2026）の調整

1) I A T A S C (Slot Conference) 事前調整

2026年夏ダイヤの調整に当たり、ロシア空域制約、グランドハンドリンク人員不足及びエンジン不具合の影響等による欠航発生状況を踏まえ前年同期の運航実績を各航空会社へ送付（9月中旬）、運航実績の相互確認を行い、各航空会社からの希望スケジュールの提出（10月上旬）を受け、希望スケジュールを規制値内に収めるよう調整し、内外の航空会社に対して一次回答（11月上旬）を行った。

2) I A T A S C (Slot Conference) 157回会議への参加

S C 157回会議がポルトガル・リスボンにて11月18日～20日の間開催され、日本乗り入れ航空会社と対面方式で個別面談を行い2026年夏ダイヤにおけるスケジュール調整を行った。

## 2. WWACG 会議、WASB 会議への貢献

発着調整事務局の国際的組織であるWWACG会議のボード・メンバー（7ヶ国）として、I A T A、A C I 及びWWACGの3者協同で設立したW A S B 会議（Worldwide Airport Slot Board：航空会社7社、空港会社7社、コーディネーター7機関の21名で構成される合同会議）に参加し、日本及びアジア太平洋地域の代表としての貢献を行った。

この会議は、スケジュール調整に関する問題点の抽出、問題の解決に向けた議論、得られた解決案を反映するため世界共通のガイドラインであるW A S G の規則改定の実施等について幅広く議論がなされるが、これら会議に日本及びアジア太平洋地域の代表として参加し各種提言を行った。

なお、対面会議としては、以下の会議に参加した。

(1) WWACG会議、WASB会議への参加（6月）

I A T A S C 156回会議に先立ち、WWACGのボード会議及び全体会議、並びにW A S B 会議が6月15日及び16日に、カナダ・バンクーバーにて開催され、これまでに合意した優先検討課題を中心に問題点解決に向けた議論を行った。

- (2) WWACG会議への参加 (9月)  
WWACGのボード会議が9月8日に、スペイン・マドリードにて開催され、前回に引き続き問題点解決に向けた議論を行った。
- (3) WWACG会議、WASB会議への参加 (11月)  
IATA SC157回会議に先立ち、WWACGのボード会議及び全体会議、並びにWASB会議が11月16日及び17日に、ポルトガル・リスボンにて開催され、前回に引き続き問題点解決に向けた議論を行った。
- (4) WWACG会議、WASB会議への参加 (3月)  
WWACGのボード会議が3月11日に、WASB会議が12日に、カナダ・モントリオールにて開催され、前回に引き続き問題点解決に向けた議論を行った。

### 3. APACA(アジア太平洋発着調整事務局連合)会議の開催

日本・オーストラリアが中心となってアジア太平洋地域における発着調整事務局の連合設立の働きかけを行ない、SC127会議(2010年開催)において正式にAsia/Pacific Airport Coordinators Association(APACA)が発足した。このAPACAの主目的は、アジア太平洋地域の各コーディネーターが抱える問題点の共有、解決策の模索、IATA/ACI/WWACGの定めるガイドラインの啓蒙等であり、発着調整組織の国際的組織であるWWACGの下部機関として活動することである。

- (1) APACA/29会議  
SC156会議期間中の6月17日、第29回APACA会議を開催した。第29回会議では、WASB及びWWACGの活動状況、メンバー各国における運航・課題対応状況等について議論・意見交換を行った。
- (2) APACA/30会議  
SC157会議期間中の11月18日、第30回APACA会議を開催した。第30回会議では、WASB及びWWACGの活動状況、メンバー各国における運航・課題対応状況等について議論・意見交換を行った。

### 4. 国際線発着調整事務局「運営協議会」

従来、国際線発着調整事務局を資金面、組織面で支援してきたのは、日本航空(株)(JAL)、全日本空輸(株)(ANA)、日本貨物航空(株)(NCA)、成田国際空港(株)、関西エアポート(株)の5社であったが、事務局の更なる独立性、中立性、公平性を確保するため、全本邦航空会社、全混雑空港からの支援を受容できるような体制強化を図った。

平成28年12月、本邦航空会社16社、空港会社等8社から成る「国際線発着調整事務局運営協議会」を設立し、資金的支援、人的支援を受けることとした。本年度においては、第18回、第19回運営協議会を開催した。

- (1) 第18回国際線発着調整事務局運営協議会の開催  
第18回国際線発着調整事務局運営協議会を7月9日に、航空会館9階会議室における実地開催とオンライン方式を併用して開催した。この会合において、①令和6年度決算報告、②令和6年度事業報告、③令和7年度予算執行状況・業務体制報告、④2025年冬期スケジュールの調整状況報告、⑤IATA等の動向等の議題に関し議論し承認を得た。

(2) 第19回国際線発着調整事務局運営協議会の開催

第19回国際線発着調整事務局運営協議会を12月17日に、航空会館5階会議室における実地開催とオンライン方式を併用して開催した。この会合において、①令和7年度第1～第3四半期予算執行状況報告、②令和7年度業務体制（案）、③令和8年度予算（案）、④令和8年度運営資金分担（案）、⑤2026年夏期スケジュールの調整状況報告、⑥IATAの動向等の議題について議論し、③及び④について承認を得た。

## 5. 国際線発着調整事務局の中立性等の推進

WASGには、国際線発着調整事務局の中立性、公平性、透明性等の確保に関するガイドラインが定められているが、当事務局として更にこれらを推進するため、下記に示すような取り組みを行った。

- (1) 第18回国際線発着調整事務局に関する運営協議会を開催した。(7月)
- (2) 第15回空港発着調整委員会及び第5回スロットモニタリング委員会を開催した。(9月)
- (3) 第19回国際線発着調整事務局に関する運営協議会を開催した。(12月)
- (4) 航空保安大学校へ講師を派遣し、これから全国各地に赴任していく航空管制運航情報官を対象として、発着調整業務の説明を行った。(2月)

## 6. 日本乗り入れ航空会社数

現在、国際線発着調整事務局において、スケジュール調整を行っている日本乗り入れ航空会社数は、約130社であり空港毎に下表のとおりである。

地域	成田国際空港	東京国際空港 (羽田)	関西国際空港	新千歳空港	福岡空港
日本	8	9	7	9	13
北米 (カナダ、メキシコ含む)	10	5	5	0	0
欧州	13	8	5	0	1
アジア・オセアニア、南太平洋	65	25	61	34	38
その他 (中東、アフリカ等)	7	3	4	0	0
合計	103	50	82	43	52

## IX. 航空会館運用事業

### 1. 航空会館のテナント貸室事業

日頃寄せられるテナントからのご意見に対して、安全・衛生的、快適に利用出来るように日々のきめ細かな管理・運営に努め、1年を通して貸室は満室となっている。

### 2. 貸会議室事業

オンライン配信の環境整備に力を入れ、会議室収入額が2年連続で前年度を上回ることが出来た。

### 3. 建物、設備の維持管理

大規模修繕工事として実施した屋上防水工事及び外壁塗装工事が完工した。また令和8年度に空調機の改修工事を実施するため状況調査を依頼した。

関連法規を順守し防災センターを通じて引続き施設、設備のきめ細かな修理営繕を行い、建物、設備の良好な環境を維持した。

## X. 航空クラブ

航空クラブは、航空宇宙関係者の交流啓発を目的として、昭和53(1978)年に設立されたが、会員数の減少により財政が厳しさを増していたことから、令和5年度より当協会の賛助員制度を改定し、賛助員制度と航空クラブを統合し新制度の下で航空クラブの運営を行っている。

航空クラブは、当協会の個人・法人賛助員と協会役職員で構成されることとなり、会員各位へのサービス等は現状を維持しつつ拡充を目指した。

令和7年度の活動としては、7月に総会、特別講演会、懇親会を開催し、特別講演会は、前(株)ANA総合研究所 顧問 高野滋様にご講演いただいた。運営委員会は、2回開催した。

航空クラブ行事として、10月に元金融庁長官 森信親様に、1月恒例の新春卓話会は、国土交通省航空局長 宮澤康一様にご講演をいただいた。

また、2月に日本空港ビルデング株式会社様のご協力を得て、2026年夏に運用開始を目指して建設中の羽田空港第1ターミナル北側サテライト建設工事現場の見学会を開催した。

同好会活動は、囲碁、書道、写真の三つの同好会が 航空会館の施設を利用して会員相互の親睦を深めた。また、写真同好会の協力のもと、令和8年1月～3月に1階エントランスに写真同好会の作品展示(第1回目)を行った。

#### (1) 会員数

法人賛助員：37社／口数215口 航空クラブ会員登録256名

個人賛助員(航空遺産賛助員登録含む)：69名

役職員会員(協会役職員、評議員、監事、顧問、各委員)：67名

合計 392名(3/31現在)

#### (2) 運営委員会

	開催日	議題等
第1回	令和7年12月4日	令和7年度事業(中間)報告等について
第2回	令和8年3月4日	令和7年度事業報告及び令和8年度の取り組みについて

#### (3) 総会

	開催日	議題等	参加数
総会	令和7年7月9日	<報告事項> ①令和6年度事業報告について ②令和7年度事業計画について ③運営委員の委嘱について	35名

(4) 活動（特別講演会等）

	開催日	演題および講師	参加数
特別講演会	令和7年 7月 9日	空飛ぶクルマの現在地 ～社会実装前夜の状況～ 前(株)ANA総合研究所 顧問 高野 滋 氏	65名
講演会	令和7年10月23日	日本経済の現状と課題 元 金融庁長官 森 信親 氏	40名
新春卓話会	令和8年 1月 9日	航空政策の現状と今後について 国土交通省 航空局長 宮澤 康一 氏	105名
見学会	令和8年 2月26日	羽田空港第1ターミナル北側サテライト 建設工事視察	21名 事務局含

\* 会員サービスの一環として、文化情報室主催の定例講演会等の案内を先行して行った。

## 事業報告に係る附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項はありません。